

---

# 人間ドック

# 人間ドックの活動

小野良樹

東京都予防医学協会保健会館クリニック

## はじめに

1958(昭和33)年、内科的な検査を主体にした1泊2日の入院ドックがスタートした。これは一部の裕福な人が利用したものであった。しかしその後、予防医学の考えが台頭した。保険者にも病気になって診療費を払うより、病気の芽を摘むほうが廉価であるという思想が定着し、各企業でも積極的に人間ドックを利用するようになってきた。すなわち一部裕福の時代から、大衆の時代に呼応してきた。人間ドックのシステムも当初、1泊2日要したものがそれより、高度な検査を入れても3時間で完了することが可能になってきた。これは、コンピュータの導入、診断装置の改善などに起因する。したがって現在は、半日人間ドックが主流である。受診者の意識は、当初、命ぜられるままにという他意的なものが多かったが、最近では健康意識の高まりを反映して自発的な受診が多くなりつつある。人間ドックを受診することにより

各自の身体的健康度をある程度把握でき、改善しなければならぬことも判明する。他意的な受診者は、改善しなければならぬ点を指摘されながらも、漫然と過ごすことが多いが、自発的な受診者は改善する努力が見られ、いわゆる行動変容が、少しずつ現れてきた。これはこの2~3年に見られる傾向である。これこそが人間ドックの意義である。

## 2004年度人間ドック実施成績

### 〔1〕性別、年齢別受診者数

男性受診者3,538人、女性受診者1,409人、計4,947人であった。これは前年度に比較し、それぞれ、248人、148人、計396人の増加(増加率8.7%)である(図1)。

人間ドックの受診料は必ずしも廉価ではないが、この増加は、予防医学の重要性を示唆する。年代別頻度は男性は40歳代が多く女性は30歳代が多い(表1)。

図1 人間ドックの実施成績

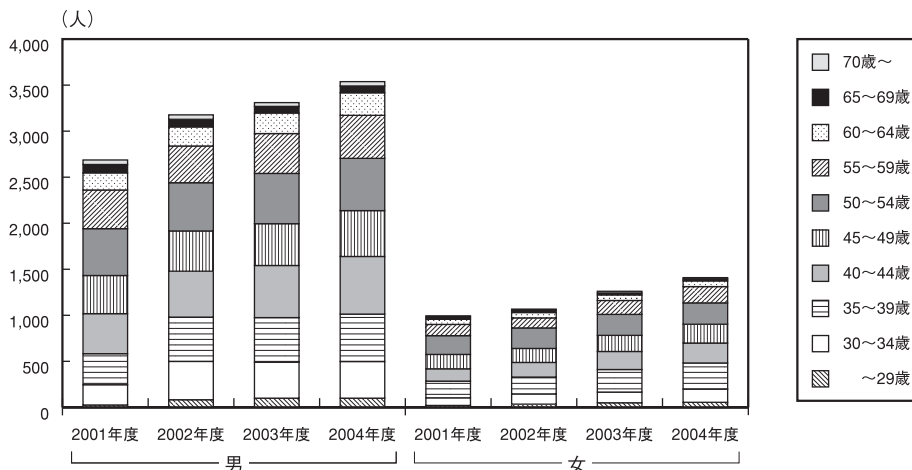


表1 性別・年齢別受診者数

		(2004年度)										
性別	年齢	～29歳	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳～	計
		男	受診者数 %	100 2.8	398 11.2	515 14.6	626 17.7	498 14.1	568 16.1	467 13.2	245 6.9	74 2.1
女	受診者数 %	55 3.9	142 10.1	285 20.2	217 15.4	204 14.5	232 16.5	177 12.6	62 4.4	20 1.4	15 1.1	1,409
計	受診者数 %	155 3.1	540 10.9	800 16.2	843 17.0	702 14.2	800 16.2	644 13.0	307 6.2	94 1.9	62 1.3	4,947

表2 性別・判定別頻度

		(2004年度)										
性別	受診者数 %	異常なし	差し支えなし	有所見 合計	有所見内訳					要精検	要再検	
					要注意	要観察	要受診	要治療	要治療継続			
男	数 %	3,538 2.46	87 1.61	57 0.10	3,035 85.78	251 7.09	1,425 40.28	927 26.20	7 0.20	425 12.01	358 10.12	1 0.03
女	数 %	1,409 2.06	29 0.04	56 0.04	1,107 78.57	120 8.52	532 37.76	342 24.27	1 0.07	112 7.95	213 15.12	4 0.28
計	数 %	4,947 2.34	116 0.02	113 0.02	4,142 83.73	371 7.50	1,957 39.56	1,269 25.65	8 0.16	537 10.86	571 11.54	5 0.10

(2) 性別・判定別頻度 (表2)

男性；異常なし，差し支えなし合わせてわずか407%であり，有所見率85.78%であった。有所見には単に，食事摂取の工夫や運動などにより所見が改善するものが多く含まれている。実際に受診を要する率は26.2%，治療を要するものは12.21%であった。要精検率10.12%である。これは主として悪性疾患を疑うものである。要精検率は5～6%くらいが望ましく，偽陽性率がやや高い傾向にある。

女性；異常なし，差し支えなし合わせて6.03%であり，男性よりやや多い。有所見の合計は78.57%でありこれは男性よりは少ない。しかし，要精検率が15.12%と高いのは，男性の検査に加えて，婦人科検診，乳房検診があるためである。

(3) 性・年齢・項目別有所見率 (図2)

肥満・体脂肪率；各年代とも有意に男性は女性より高値である。

高血圧；男女間には有意差は認めないが，両性とも加齢的に高血圧症が増加する。

糖尿出現頻度；50～60歳代において男性は女性より有意に多い。

心臓病；両性ともほぼ平行であり，加齢ととも

もに有所見が増加する。

貧血；若年女性においてやや貧血傾向を呈するが，男性との間に有意差は認めない。

腎機能；女性は各年代において，有意に腎機能有所見率が高い。

肝機能；各年代において男性は女性より肝機能有所見率が高い傾向にある。

高脂血症；若年層では男性は女性より有意に有所見率が高いが，50～60歳代においては女性が有意に高くなる。これは閉経に起因すると考える。

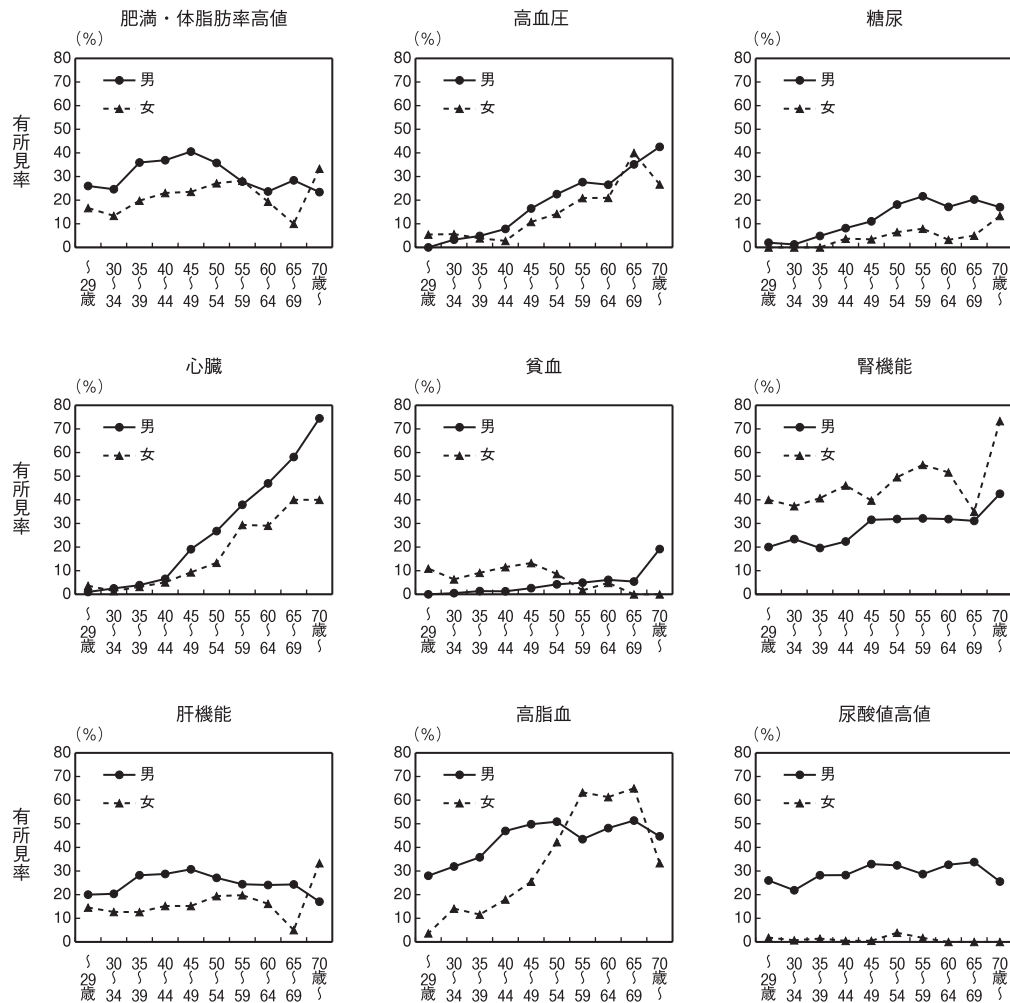
尿酸；各年代とも有意に男性が高い。食生活，特に嗜好品の影響が推定される。

(4) 人間ドックで発見・確定されたがん (表3 P98)

がん発見率は0.24%でありその内訳は下記のとおりである。早期がんはいずれも逐年検診であり，進行がんは飛び込み症例であった。

早期胃がん	2人
進行食道がん	1人
肺がん	早期腺がん 1例
	進行扁平上皮がん 1例
悪性リンパ腫	1例
膵管がん	1例

図2 性・年齢・項目別有所見率



腎細胞がん 3例

乳がん 4例

(5) 乳がん検診の項目別受診者数および比率(表4)

乳がん検診に対し、2004(平成16)年、厚労省は40歳代以上にマンモグラフィと視触診の併用検診を隔年実施する指針を示した。これに呼応して人間ドックでも乳がん検診受診者が増加しつつある。項目別受診者比率は視触診のみ2.1%、エコーのみ0.9%、マンモ+エコー1.6%、視触診+エコー66.4%、視触診+マンモ+エコー3.6%、視触診+マンモ7.4%であり、人間ドック受診者のほとんどは視触診+エコーを実施していた。受診者の年代的ピークは30歳代であり、乳腺の発達程度から見るとこの選択は正

しい。理想的には乳腺の発達程度より、30歳代はエコー、40歳代はエコー+マンモ、50歳以上がマンモ検診が望ましい。乳腺の発達している30歳代のマンモにおける腫瘍の発見は困難である。2004年における人間ドックからの乳がん発見率は4例であり、発見率0.39%であった。

総括

健診後の行動変容が人間ドックの最大意義である。東京都予防医学協会では人間ドック受診時の結果説明、その後の予防医学相談、さらには企業に向いての保健指導など、多彩な活動を展開してきたが、まだその数は少ない。しかしこれらの努力によっ

て、禁煙に成功したこと、節酒できたこと、腹囲径が縮小したことなどの報告を聞くと着実にその成果が現れつつあることがわかる。

表4 人間ドック受診者(女性)における乳がん検診項目別受診率

受診率(%)											
	～29歳	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳～	全体
視触診のみ	0.0	0.7	2.8	2.8	2.9	2.2	0.6	4.8	0.0	0.0	2.1
エコーのみ	5.5	4.2	0.4	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
マンモ+エコー	9.1	8.5	0.7	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6
視触診+エコー	63.6	59.9	74.7	67.7	60.8	68.1	66.7	61.3	50.0	53.3	66.4
視触診+マンモ+エコー	0.0	2.1	2.1	4.1	3.9	4.3	2.8	4.8	20.0	20.0	3.6
視触診+マンモ	5.5	6.3	3.9	7.4	9.8	6.9	11.9	9.7	5.0	6.7	7.4

受診者数(人)											
	～29歳	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳～	計
人間ドック受診者数(女性)	55	142	285	217	204	232	177	62	20	15	1,409
視触診のみ		1	8	6	6	5	1	3			30
エコーのみ	3	6	1	1	1						12
マンモ+エコー	5	12	2	3							22
視触診+エコー	35	85	213	147	124	158	118	38	10	8	936
視触診+マンモ+エコー		3	6	9	8	10	5	3	4	3	51
視触診+マンモ	3	9	11	16	20	16	21	6	1	1	104
総 計	46	116	241	182	159	189	145	50	15	12	1,155

乳がん検診

(2004年度)

受診項目	受診者	
	数	%
視触診のみ	30	2.6
乳エコーのみ	12	1.0
マンモ+乳エコー	22	1.9
視触診+乳エコー	936	81.0
視触診+マンモ+乳エコー	51	4.4
視触診+マンモ	104	9.0
総計	1,155	4

表3 人間ドックで発見・確定されたがんの推移

年度	胃 部 X 線				胸 部 C T				腹 部 超 音 波			
	発見がん		発見がん		発見がん		発見がん		発見がん		発見がん	
	受診者数	発見時の年齢	部位	早期再診	受診者数	発見時の年齢	部位	早期再診	受診者数	発見時の年齢	部位	早期再診
1995	2,145	58	胃	早期再診	2,052	55	大細胞がん	不明	2,234			
		53	残胃	早期再診								
		44	胃	早期再診								
		61	胃	早期再診								
		66	胃	進行初回								
1996		71	食道	早期再診								
	2,478	60	胃	早期初回	2,090	45	細気管支上皮がん	早期初回	2,300			
		46	胃	早期初回								
1997		56	胃	早期初回								
	2,427	63	胃	進行再診	2,295	48	腺がん	早期初回	2,494			
		60	胃	早期再診								
1998		54	胃	早期再診								
	2,437	54	胃	進行初回	2,437	52	胸膜上皮がん	早期初回	2,505	50	浸潤性膵管がん	肝転移
		57	胃	早期初回		57	腺がん	早期初回		66	転移性肝がん	
		54	胃	早期初回								
		51	胃	早期初回								
1999		51	胃	早期再診								
		57	胃	早期再診								
		65	胃	不明初回								
2000	2,860	60	食道	不明再診	2,904	54	腺がん	進行初回	3,009	61	腎細胞がん	
		59	胃	早期再診		44	膀胱がんからの転移	進行初回		61	腎細胞がん	
		61	胃	早期再診		48	肺胞上皮がん	早期再診				
2001		66	食道	進行再診		51	肺胞上皮がん	早期再診				
	2,934	52	食道	不明再診	3,002	56	細気管支肺胞上皮がん	早期再診	3,094	53	腎細胞がん	
		59	胃	早期再診						49	腎細胞がん	
		61	胃	早期再診						58	腎細胞がん	
2002		66	食道	進行再診						61	腎細胞がん	
	3,454	68	胃	早期初回	2,820				3,678	63	肝細胞がん	
	4,001	43	胃	進行初回	2,928	63	腺がん	早期初回	4,243	41	腎細胞がん	
2003		56	食道	進行再診						41	腎細胞がん	
	4,309	56	食道	進行再診	4,571				4,571	53	胆のうがん	
		59	胃	早期再診						57	悪性リンパ腫	
2004		57	胃	早期再診						54	腺がん	
	4,629	51	食道	進行再診	3,928	55	扁平上皮がん	進行再診	4,947	59	食道がんリンパ節転移	
		51	食道	進行再診						50	腎細胞がん	
									61	腎細胞がん		
									59	腎細胞がん		